

「佐渡金銀山」保存・活用行動計画  
令和2年度事業点検・評価調書

5-Ⅱ-11

5-Ⅱ-11

章	第5章 世界遺産を核とした魅力ある地域づくり	取組項目	空き家や耕作放棄地の活用
節	Ⅱ.伝統文化・地場産業の振興		
事業(施策)名	11 耕作放棄地等の再生・活用	事業主体	佐渡市農業政策課
事業実施期間	H28～R4	関連団体	佐渡地域振興局農林水産振興部、佐渡市農林水産課、佐渡市観光振興課
事業概要	【事業目的】	○ 耕作放棄地等を再生・活用することにより、地域振興及び交流人口の拡大を図る。	
	【事業内容】	○ 農作業、収穫体験等、グリーンツーリズムを活用した交流事業の実施や、棚田や果樹等のオーナー制度の拡充を図る。	
事業計画と実績	【R2年度計画】	● 昨年度製作した棚田カードなどを活用しながら、耕作放棄地の再生・活用による地域振興及び交流人口の拡大を図るモデルとして小倉千枚田オーナー制度事業を継続する。 交流イベントの実施については、新型コロナウイルス感染症の動向を注視しながら、開催の可否を判断していく。	
	【R2年度実績】	● 令和2年度に配布した棚田カードは、岩首500枚、小倉400枚、月布施200枚の計1100枚であった。基本的に現地で受け取るカードであり、コロナ禍において人の往来が自粛されたことにより配布枚数にも影響を受けた。小倉千枚田オーナー制度については、募集した63区は全て埋まった。 交流イベントの実施については、新型コロナウイルス感染拡大が収まらず、田植え交流会は管理組合員など地元の関係者のみで作業を実施し、稲刈り交流会については、市内のオーナーと関係者で作業を行った。	
課題・今後の取組	【課題】	■ オーナーへの特典やイベント内容の充実など、受入れる側の意識の啓発も必要であるとともに、オーナー制度の持続性を高める体制づくりが急務となっている。	
	【今後の取組】	■ 小倉千枚田オーナー制度の持続可能性を高めるため、地元管理組合の適切な収益を確保し、事業継続を高めていく。更に、佐渡棚田協議会が積極的に関わり、オーナー田周辺の耕作放棄地をオーナー田として活用するなど、新たな魅力、メニューを開発することで、交流促進を図る。	
事業評価	【事業の達成度】 〔 a (b) ・ c 〕 【事業実施の効果】 〔 a (b) ・ c 〕 【総合評価】 〔 A (B) ・ C 〕	◇ 概ね計画どおり進んでおり、棚田の保全と活用、交流促進につながっているが、担い手の高齢化などの課題もあることから、今後も佐渡棚田協議会が中心となり、そのほかの棚田地域にも取組みを広げ、地域振興及び交流人口の拡大につなげたい。	

a: 進んでいる。高い。  
b: 概ね順調。概ね適切。  
c: 遅れている。低い。

A: 計画を上回る進捗で、十分な成果が得られている。  
B: 概ね計画どおり進んでおり、一定の成果が得られている。  
C: 計画から遅れが見られ、十分な成果が得られていない。